

「相模原シティプライド」 ～どう考える？相模総合補給廠から相模原の未来を～

「公民連携イノベーション 相模原ダイアログ」の開催について

新たな視点・価値で、公民連携で実施可能なプランを検討する「公民連携イノベーション 相模原ダイアログ」を開催いたします。

8月から、23名、4チームが、相模総合補給廠一部返還地を「相模原シティプライド」と仮称し、相模原シティプライドをどんな魅カクラスター（魅力を集積させることで新たなプレイヤーや市民の流入を促す意味の造語）にするかを考え、政策形成とビジネスアイデアを合わせたプランを検討してきました。

検討したプランを、「相模原ダイアログ」において、対話の場を活性化するための題材として発表し、会場全体で意見交換を行います。

なお、この相模原ダイアログは、東京家政学院大学、横浜銀行との共催で実施するものです。

1 日時

令和2年1月30日（木）13：30～16：30（13：00受付開始）

2 場所

相模原市立産業会館 多目的ホール（相模原市中央区中央 3-12-1）

3 内容

プログラム	ファシリテーター
○基調講話 ○魅カクラスターごとのプラン発表を通じた 市民・事業者・職員の対話	Slow Innovation(株) 代表取締役社長 野村 恭彦 氏

4 検討したプランについて

相模総合補給廠一部返還地のまちづくりの検討において、施策を進めていく上での参考資料として活用する予定です。

問合せ先
職員課 職員研修所
担当 宮地
電話 042-769-8332

提案プラン概要

【エデュケーション(教育)クラスター】

○まなぶつくるためすさがみはら

従来の市が主体となるまちづくりではなく相模原の未来を担う、こどもたちがまっさらな一等地である相模原シティプライドにあたらしいまちをデザインする。こどもたち自身が「まなび・つくり・ためす」ことで想像力・行動力・決断力・協働力など生きる力を育み、相模原に愛着を持って成長し市も発展することが出来る事業。こどもたちが愛着を持ち育つことで未来では相模原に関係する人が増え次の世代に繋いでいくことが目標。

【スポーツクラスター】

○No Sagamihara, No Life.

-PRIDE of sagamihara

「スポーツを通じた人と人とのコミュニケーション」をテーマに、相模原シティプライドを活用し、本市におけるスポーツ振興を核とした地域課題等の解決を図る。

・ハード面:複合型スタジアム、ユニバーサルマンション、メディカルヴィレッジ、eスポーツ設備等を設立し、スポーツ都市の礎とする。

・ソフト面:プロスポーツ選手との交流や、スタジアム等を利用したスポーツ教室、寺子屋の実施などで、地域住民の交流を図る。

【プレイフル(遊び)クラスター】

○さがみはら冒険アソビタウン計画

●相模原シティプライドを遊び場へ

①返還地に広場や冒険遊び場エリアをつくり、人が楽しめる空間を創出②冒険遊び場エリアにプレイヤーを配置し、子どもが遊ぶ際の環境整備と見守り③電動モビリティを配備、最先端技術の体験を可能にし、企業実験の場を提供

●シティプライド周辺の公道を歩行者天国にし、歩いて楽しい公共空間へ

①淵野辺駅から橋本駅の線路沿いの道が対象②補給廠周辺の公道に対して制限を緩和し、新しい道路の活用方法を提供

【グリーン&エディブル(食)クラスター】

○耕生(こういき)交流拠点さがみはらの挑戦～農業図書館と耕生ポイント制度～

「みどりで広がる輪」という、相模原シティプライドを中心に緑や農を通じたヒトやモノの交流が市内外に広がっていくことをビジョンとし、農業図書館の整備及び耕生ポイント制度を制定。

●農業図書館:農耕器具を貸し借りできる仕組みや、市内外特産品の販売所、農に関するコンシェルジュ機能を整備

●耕生ポイント制度:貯めたポイントを農業体験への参加や、市内外特産品の購入等に利用

※クラスターとは

本件では、魅力を集積させることで新たなプレイヤーや市民の流入を促す意味の造語として魅力クラスターという言葉を用いています。

各テーマごとの魅力クラスターを○○クラスターと表現しています。

【プログラム】

時間	内容
13:30～	趣旨説明
13:40～	ファシリテーターから基調講話
14:10～	相模原チャレンジで設定したクラスターごとの発表 ・検討プランの発表(各10分) ・会場全体での意見交換(各15分) ①エデュケーションクラスター(14:10～) ②スポーツクラスター(14:35～) ③プレイフルクラスター(15:10～) ④グリーン&エディブルクラスター(15:35～)
16:00～	全体講評等